

1 消防団概要

日立市は、茨城県の北東部に位置し、西は阿武隈山系に連なり、東は太平洋の海岸線を臨み、穏やかな気候、山、海の自然豊かな自然環境に囲まれた街並みとなっています。また、現在の日立市は、平成の大合併に伴い、隣町の旧十王町と合併が行われ、平成16年11月に新たな日立市が誕生しました。

この市町村合併に伴い、消防団においても旧十王町とが一体となり、現在の日立市消防団が誕生することとなりました。



消防団の林野火災演習出場風景



林野火災演習放水風景

現在の日立市消防団は、今橋団長以下394名の団員により構成されており、各種災害から市民の安全・安心を守るため、年間を通じて、過去に発生した災害事例に対応した各種演習や、更には、新しい時代に対応するために関係機関と連携した大規模災害トリアージ訓練等を実施しています。

2 活動内容

1. 林野火災消防演習

平成3年3月7日、市内西側の山林から発生した火災が、山際に隣接する団地に次々と延焼し2日間に渡り燃え続け、住宅13棟全焼、13棟部分焼という大規模な林野火災が発生しました。この大規模林野火災を契機に、市民の防火意識の高揚と消防署、消防団及び企業消防隊とが連携強化を図ることを目的として「日立市林野火災消防演習」を毎年同時期に市内各地域の山林周辺で実施しています。

2. 大規模災害における救出・救護・トリアージ訓練

この訓練は、平成15年度から災害対応能力の向上と、関係機関の連携強化を図る事を目的として、日立市地域医療協議会、日立市医師会、薬剤師会等、医療機関関係者、警察、市役所、消防本部などの関係者が参加し、言わば「オール日立」で実施され、毎年約300人の方々が訓練に参加しています。訓練内容は、情報収集活動から各関係機関の参集訓練に始まり、DMATとの合同訓練、人命救助訓練、消火活動訓練、トリアージ訓練、搬



トリアージ訓練の風景

送訓練、エマルゴ訓練等を実施し、消防団員も本訓練に参加することで、大規模災害に備えた対応能力の向上を図っています。

平成23年に発生した東日本大震災において、本市は震度6強の揺れと最大5.3mの津波に見舞われ、多数の傷病者が同時期に発生するという事態を体験しました。消防団は、ひとり暮らしのお年寄り宅の転倒した家具やブロック塀の片づけなど、行政の手の届かない、細かい地道な作業を積極的に行い、地域から頼りにされる存在でありました。この被災体験から、トリアージ訓練の重要性を再認識し、地域の防災リーダーである消防団として「急ぐべき時は急ぎ、待つべき時は待つ」という緊急判断の基本理念を基に、更なる救命率の向上を図るため、常に最新の知識と技術を身に付け、今後も関係機関の皆様と共にトリアージ訓練を続けていきたいと考えております。

3 今後の活動について

これまでご紹介したように、日上市消防団では、毎年、過去の大規模災害を教訓とした各種演習や大規模訓練等を実施

しておりますが、一方では、昨年12月に年末年始特別警戒中の消防団員が、偶然にも店舗内で心肺停止状態で倒れていたお客さんと遭遇し、訓練で習得した心肺蘇生法を直ちに実施し、その後到着した消防隊員との連携により、幸いにも社会復帰に導いたという事例がありました。まさに、これまで実施してきたトリアージ訓練等の成果により、一人の尊い命を救えたものでありました。

過去に市内で発生した大規模林野火災や東日本大震災は、今だに私達や市民の記憶から消える事はありません。特に、東日本大震災においては、幸いにも一人の死者も出さずに済んだ事に、消防との連携や普段の訓練の大切さを痛感しました。

そのため、今後の消防団活動においても、各種訓練をはじめ、大規模災害を想定した、常に新しい時代に対応した訓練を心掛けていきたいと考えております。そして、地域住民との顔の見える関係の中で、常に市民から信頼される消防団でありたいと願っています。

【問合せ先】 日上市消防本部警防課